

ハンガーゼロ(日本国際飢餓対策機構)は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体(NGO)です。1981年に誕生して以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、海外スタッフ派遣、飢餓啓発を行っています。現在は、国際飢餓対策機構連合(Food for the Hungry International Federation)の一員として、20カ国、国内外の80のパートナーと協力し、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、「こころからだの飢餓」に応える活動をしています。

チャイルドサポーターからのお知らせ

ウガンダ支援地訪問

募集受付は終了いたしました。お問い合わせをいただきました皆様ありがとうございました。

ボリビアで支援終了式典

ハンガーゼロはアサワニ地区

キングダムビジネス

営業所移転のお知らせ

皆様にご愛顧いただきてきましたキングダムビジネス(フェアトレード商品販売会社)は、4月から営業拠点を大阪から横浜市内に移転、代表者も交代いたし

5/3に平和音楽祭

紫園親善大使らが出演・演出

終戦から80周年を記念して「Peace Classic Festival 2025〜Stop The War!〜」が5月3日に東京の紀尾井ホールで開催されます。ハンガーゼロ親善大使の紫園香さん、小堀英郎さん、森祐理さん(レポート)も出演されます。チケットは「イープラス平和音楽祭」(検索)で販売中。問合せTel.03-5341-6927(主催:いのちのことば社)まで。なおコンサートの収益は共催するハンガーゼロ

でのチャイルドサポーターの支援活動を終了しました。

3月に行われた支援終了式典の様子は、ハンガーゼロのボリビア駐在小西スタッフから後ほどご報告いたします。なお、ボリビアのフィールド支援活動はこれからも継続します。

ます。事業は変わらず継続いたしますので、今後ともよろしくお願いたします。

【新営業所】

住所: 〒235-0021 横浜市磯子区岡村1-23-12
電話番号: 080-9126-7701
代表者: 水野行生

に寄付されます。



Child Supporter お申し込み

- 【支援方法】
- 1. 子ども支援 名(1名4,000円)
 - 2. フィールド支援 □(1口1,000円~)

クレジットでの申込はこちらから⇒
クレジット申込の方は下記記入不要です



ご希望に○をつけてください

- ・銀行自動引落
- ・郵便自動引落 ▼下記の住所に申込書類をお送りします

氏名	フリガナ
ローマ字	
メール	
電話番号	
住所	〒
申込日	年 月 日 NL417号

チャイルドサポーター事務局・直通072-920-2226

あなたの祝福を分かちませんか
Giving Back
わたしから始める...愛の恩返し
遺贈寄付
顧問弁護士が無償でご相談等お手伝いします
Hunger Zero
東京事務所・近藤 TEL.03-3518-0781
詳しくは電話でご説明しますのでご連絡をお待ちしています

専門講師(弁護士)による出張個別相談もできます

わたしから始める、世界が変わる

Hunger Zero News
ハンガーゼロ・ニュース

1分間に17人(内12人が子ども)
1日に2万5,000人が
1年間では約1,000万人が
飢えのために生命を失っています

2025

4

No.417

特集 Child Supporter
チャイルドサポーター

Hunger Zero News 今月号の内容

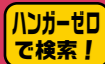
- チャイルドサポーターになってください! P.2
- わたしたちが目指す支援のあり方 P.3
- 支援についてQ&A P.4
- サポーターの応援コメント P.5
- 家族のStory ルワンダ P.6
- ウクライナ支援・王さんの報告 P.7



支援地ルワンダで学ぶ子どもたち

■発行 清家弘久

■発行所 一般財団法人 日本国際飢餓対策機構



Webサイトアドレス <http://www.hungerzero.jp>
eメールアドレス general@jifh.org
フェイスブック facebookでハンガーゼロで検索

■募金方法 ※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウェブサイト
①郵便振替 00170-9-68590 一般財団法人日本国際飢餓対策機構
②他の金融機関からの自動振替③クレジット、デジタルコンビニ



●Vポイントを利用して「南スーダン・マピ小中学校給食支援」ができます。現在までに1,810,918ポイント(円)のご協力(26,496件)がありました。

大阪 〒581-0032 八尾市弓削町3-74-1
(広島/沖縄) TEL (072)920-2225 FAX (072)920-2155
東京 〒101-0062 千代田区神田駿河台2-1 OCCビル517号室
(東北) TEL (03)3518-0781 FAX (03)3518-0782
愛知 〒460-0004 名古屋市中区新栄町2-3 YWCAビル6F
TEL (052)265-7101 FAX (052)265-7132
USA Ainote International c/o Mr. Takehiko Fujikawa
TEL (510)568-4939 FAX (510)568-4939
jifh.ainote@gmail.com
HP <https://ainote.org>



【本紙の送付についてのお問合せは】左記eメールアドレス、Webサイトのお問い合わせ、または大阪事務所までご連絡ください。

チャイルドサポーター になってください!



お申し込み・お問い合わせはチャイルドサポーター事務局 cs@jifh.org
直通 Tel.072-920-2226 大阪府八尾市弓削町 3-74-1 (ハンガーゼロ大阪事務所)

今すぐ!
お申込み



子どもを取りまく環境を改善できるよう、子どもや親、地域リーダー、地元の行政に働きかけながら教育や保健衛生活動、生計向上活動などを中心に地域開発を行っています。この働きがやがて地域全体を変えていき、助け合いながら貧しさから抜け出せることを目指します。



支援先 MAP

2025年4月現在

現在3カ国でサポーター募集!

- バングラデシュ**
- ルワンダ**
- カンボジア**

※ウガンダとフィリピンは現在募集はしていません



ボリビア動画



カンボジア動画



現地スタッフの声



ボリビア



支援の成果で活動を終了し、自立への歩みを始めた地域の動画レポートをぜひご視聴ください!



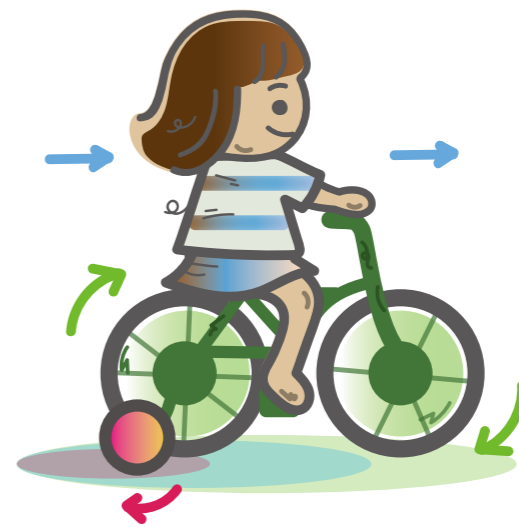
サポートのしくみ (自転車に例えると)

project
プロジェクト

農業・保健衛生・
貯蓄プログラム・農業訓練

supporter
サポーター

子ども、親、地域へのサポートを
子どもとの交流を通して行います



support child
サポートチャイルド

- ・体が健康になる
- ・学校に行けるようになる
- ・栄養がある食事ができる

parent・region
親や地域

- ・協力して自立に向け歩み始める
- ・子どもを学校に行かせる
- ・災害に強い安全な町作り



サポーターは『補助輪』のように、子どもたち・家族・地域がその力を精一杯活かせるよう手助けします。

わたしたちが目指す支援のあり方

【主体的】

国際協力活動の現場では、「支援する」側と「支援される」側という関係がつかまといがちです。そんな中でたとえ厳しい状況にあっても人々が、自分たちに本当に必要なものは何か、それにどう対処すれば良いかを考えていけるように励みます。

【意欲的】

一方的に与えるだけの支援ではなく、人々の自立への努力を促し、努力だけでは得られない部分に私たちが協力をして、人々が問題を解決する意欲を持ち続けることができるように支援します。

【持続的】

地域での活動において最も重要なことは、持続可能であることです。チャイルドサポーター支援を通して、子どもたちや地域の人々が教育や訓練を受けて、活動を「受け継ぐ」人材を育成しています。それによって、子どもたちや人々が地域の将来を担い、明日に継続されていく働きへと繋いでいくことができます。



【相乗的】

教育が、単に地域社会の教育の改善だけにとどまらず家族の自立につながっていくように、また、まわりの地域社会全体の結束・協力関係の強化につながっていくように工夫しています。

備蓄をしながら社会貢献



世界にパンを届けよう



皆様から回収された救缶鳥は各地に飛んでいきました!

食料が不足している、国内外の豪雨・地震等の災害被災地や、海外の飢餓地域等へ送られました。



おいさと夢をお届けします。

株式会社パン・アキモト

パンの缶詰 since 1995

〒329-3147
栃木県那須塩原市東小屋295-4
TEL 0287-65-3351

パン・アキモト 検索

支援について
Q & A

チャイルド(カタカナ表記)…サポートを受けている子どもを指しています。

FH=国際飢餓対策機構

Q 支援する期間

特に支援期間は設けていませんが、基本的には一年以上、なるべく現地での支援終了時まで続けていただければと願います。ご都合により変更が必要になる場合には、できるだけ早くご連絡をお願いします。

Q チャイルドと手紙のやりとり

「子ども支援」をしておられるサポーターの方は手紙のやりとりができます。サポーターの方々からの手紙は、困難な状況の中にいる子どもたちにとって、大きな励みとなります。手紙は日本で英訳して各国に送られ、現地スタッフによって現地の言葉に訳されます。サポーターには、子どもからの手紙の返事の他に、年に1度クリスマスカードと成長記録をメールでお届けいたします(※デジタル化へのご協力を極力お願いしておりますが、ご相談ください)

Q 支援するチャイルドの偏向

子どもの家庭事情、あるいは地域全体がFHの支援を必要としなくなった時には、チャイルドへの支援を終了することがあります。その際には、終了理由をお知らせして、他のチャイルドをご紹介致します。

Q 複数人で1人のチャイルドの支援

グループで1人のチャイルドの支援も可能です。その場合、グループ名或いは代表者のお名前で登録させていただきます。チャイルドから手紙や写真が届いたとき、チャイルドの成長や現地の様子を想像しながら、と一緒に喜びを分かち合ってください。

右のQRコード▶から
今すぐお申し込みができます



チャイルド
「あなたと出会えてよかった」

KFHI親善大使を迎えて支援イベント開催

チャイルドサポーター募集を広く呼びかける「ハンガーゼロ・チャリティコンサート」が、2月14日と16日に東京で開催されました。

韓国国際飢餓対策機構(KFHI)との共催で実現したこのコンサートには、ゴスペルシンガーソングライターのユ・ウンソンさんと韓流スターのキム・ジョンファさんご夫妻(共にKFHI親善大使)が出演。心温まる歌声とメッセージが会場を包みました。

ご夫妻は、エイズで両親を亡くしたウガンダの女の子(当時6歳)を支援し、遠く離れていても本当の親子のような関係が続いていることを紹介。成長した女の

子の結婚式と自分たちの結婚式を一緒に行ったことが語られ、世界の飢餓・貧困地域の子どもたちに心を寄せるイベントとなりました。

継続的に支援をして、子どもたちの成長を我が子のように見守ってこられたユ・ウンソンさんのお話を聞き、集会後には会場やオンラインを通じて、多くの方がチャイルドサポーターの申込みをしてくださいました。ご協力いただきました皆様に感謝いたします。



恩送りとは…もらった恩をその人でなく次の人に送ること

私の“恩送り”かな

パートで働いたお金、自分で作り出したお金で少しでもお役に立てたのなら幸いです。私も周りの方々にお世話になっているのでこれが“恩送り”のかな、と考えています。Y.S.



成長が嬉しい

可愛いチャイルドが成長していく姿を見る事ができて嬉しかったです。K.M.

地域の発展が嬉しい

小さなサポートを通して、貧しい地域の子どもたちや家族、また地域の様々な分野での発展に貢献できていることを嬉しく思います。これからも経済的サポートと共に、その国や地域の方々にも創造主である神様の恵み、助けと祝福が注がれるよう祈ります。O.L.

手紙で成長を感じます

チャイルドの写真を見たり、当初は文字が書けずに手紙は代筆でしたが、自分で文字が書けるようになっていっているのを見たりして成長を感じます。支援卒業までサポートしてこられた職員の方々にも厚く感謝いたします。M.K.

Child Supporter
チャイルドサポーター
の応援コメント

子どもの成長と支援地域の環境改善のために、温かい励ましの言葉を寄せてくださり感謝いたします。

未来を担う存在の手助けに

中学、高校を通してこのような活動があることを知り、お金という形ですが誰かの支えになれたのが良かったです。また、カンボジアという観光で訪れた素晴らしい地域の未来を担う存在の成長の手助けになれてたら嬉しいです。Y.S.

私たちの本当の子どもみたいだね

私は6年前にチャイルドサポーターを始めました。その間に私は結婚し、主人もチャイルドサポーターに加わりました。お互いサポートする子どもから手紙が来ると見せ合い、「それぞれ性格が自分に似てるね、本当の子どもみたい」と話すこともありました。実際に会ったことはなくても、写真や文章から成長を感じることができました。今回、サポートが終了と聞いてとても寂しいですが、地域が自立した証だと思いと感謝の気持ちでいっぱいになりました。支援された子どもがまたバトンを受け取って、さらに周りの人を支援する大人に成長してくれたら嬉しいです。M.R.



25年何人ものチャイルドに出会えた

支援を始めて早いもので25年が経ちました。就職してお給料をもらうようになり、自分が数時間働いただけでもらえるお金で子どもが学校に行けるようになるなんて…と思ったのがきっかけでした。これまでに何人ものチャイルドに出会って、微力であっても世界と繋がって、人の役に立てることに喜びを感じてきました。これからもチャイルドとの出会いを楽しみに支援していきたいと思っています。M.M.

私の心にも小さな灯火

一人の子どもさんとそのご家族に、私たちの支援が小さな灯火となれたのでしたら、私たちの心にも小さな光が灯りました。全てのスタッフの方々の働きに、感謝致します。C.I.



FH=国際飢餓対策機構

家族の
Story
ストーリー



ルワンダ

ムカバチンダ アニットさんは、夫アウグスティンさんと4人の子供とサルヘシ集落のルホンダ村に住んでいます。アウグスティンさんは農業を、アニットさんは仕立て仕事をしながら生計を立てています。しかし収入は不安定で、家族全員を養うには十分ではありません。



自分で意思決定することの大切さを知る

【貧困と課題】 作物が十分に収穫できない

アニットさんの家族は、清潔な水を手に入れたり子どもたちの教育といった基本的な必要を満たすこともできませんでした。土壌の酸性度が高いために十分な作物を収穫できないことが大きな問題でした。食料が不足し、市場に出せる余剰作物はほとんどありませんでした。そんな中、アニットさんがFHの活動に参加することになりました。

【家族の変化】 ミシンの支給で生活が改善

彼女は地域の理解を深めるための研修や起業家としての技能向上の研修に参加しました。「参加すること、自分で意思決定をすることの大切さを学びました」とアニットさんは話します。彼女は、近代的な農業技術研修を受け、堆肥作りや土地の活用方法を学んだことで、農業の生産性を向上させるヒントを得ました。

さらに、FHから支給されたミシンによって新たな収入を得ることができるようになり、石鹸や食用油、子どもたちの学習教材を買う余裕ができました。

ミシンが家族の生活を大きく変え、その収入の一部を貯蓄グループに預けて、必要な時にお金を借りること



ができます。また、貯蓄とは別に手元にも収入を残し、家族の生活を支えることができます。アニットさんは、「収入のおかげで、卵を産む鶏をかうことができました。また、ひよこ2羽を購入し、成長したひよこを売ってさらに収入を得ることが出来ました」と生活が改善された様子を語ってくれました。

【地域への貢献】 他の人にも参加を促す

FHの支援は、アニットさんだけでなく、地域全体にも良い変化をもたらしました。「私を含め地域のほとんどの人が、研修や習った技能を活かして収入を生み出すことができるようになりました」と彼女は語っています。

アニットさん自身も仕立屋として積極的に活動し、顧客を増やしています。「地域の他のメンバーにもFHの活動に参加してもらい、この変化を体験してほしいと願っています。私の希望は、家族が将来困ることなく十分な収入を得られるようになることです」と今後の展望を語っています。

困難な状況に置かれた家族が、支援と自身の努力によって未来が切り開かれることをこのお話は教えてくれます。FHの活動は、人々の自立を促しながら、地域全体が貧困から脱却することができるように助けています。チャイルドサポーター及びフィールドサポーターの活動によって、子どもたちを取り巻く環境の改善を目指した包括的な支援を行っています。



支援地域の
子どもを支援

チャイルドサポーター
月々4,000円

支援地域の特定の子供とつながり、地域で行われる活動をご支援頂きます。サポートチャイルドと手紙による交流が可能です。

2つの支援の方法

Child Supporter
チャイルドサポーター



▶お申込み◀

支援地域の
環境を改善

フィールドサポーター
1,000円から

月々または自由なタイミングで支援できます。サポートチャイルドとの交流はありませんが、現地での活動の様子のレポートをお送りします。



お電話での問い合わせはチャイルドサポーター事務局へ 直通TEL072-920-2226

Hunger Zero ウクライナ難民支援

ハンガーゼロのウクライナ難民支援を続けてきた王楠穎さん(台湾国籍)が3月上旬に来日、現地の活動状況を報告しました。ロシアに居住地を奪われた東部地域の人が近隣地域に大量に流入し、それが社会に深刻な歪みを生み出しているとのこと。王さんは、この4月からハンガーゼロ・スタッフとしてウクライナで難民支援活動に取り組みます。引き続きご支援をお願いします。



恐怖と貧困に苦悩する国内避難民の善き隣人として

現在、ウクライナ西部のリヴィウ市内のアパートを確保して、居住と物資保管に使っています。そこからポーランドの教会から提供された大きなバン(車)に支援物資やボランティア数名を乗せて、厳しい状況下にある東部地域などに入ります。

現地で危険を感じる

戦争が始まる前に私が住んでいた東部のハリキフでは、この1年で2,658の建物がロシア軍の攻撃で被害を受けました。ミサイルやドローン攻撃を警告するサイレンは年に2千回以上鳴り、人々は毎日緊張状態に置かれています。

車を使って物資や人を運ぶことがとても重要ですが、男性は兵士として徴用されるため運転手が不足しています。私は外国人ですし一緒に行くのは24歳以下の若者(主に教会関係者)なので問題ありません。現地ではロシア側に情報が利用されるのでナビゲーションシステムが使えません。

活動内容を具体的に

今は孤児院や精神疾患をもつ子どもがいる福祉施設、現地のキリスト教会、負傷兵のリハビリ施設などへの訪問活動をしています。肉や野菜、果物を届けたり、子どもたちの勉強の助けや一緒に運動したりします。兵士のリハビリ施設では牧師さんによるカウンセリングやお茶と音楽の慰問



兵士をケアする牧師さんたちと

高知ベンテコス教会隣接のクリニック

医療法人オリーブ
大川内科
循環器内科・内科・老年内科
院長 大川 真理



子どもたちの福祉施設の訪問活動

も行います。また生活苦にある人たちに我々の活動に参加してもらい、報酬として食品を提供したりしています。

今問題になっていること

戦争で家を追われた人々は政府から避難民認定を受け、住む場所と日本円で月額大人7、8千円、子ども1万5千円程が支給されます。しかしお金の支給は滞っています。収入はそれだけで、食事はパンとスープを1日に1回程度です。現地に行くとみんな空腹を訴えます。またそこに住まいがある人には政府の支援はほぼありません。戦争の恐怖が続く仕事もなく極度の貧しさの中で、自死、窃盗、売春、麻薬取引、母親が自分の子(乳幼児)を売ったり、ロシアの内通者になったり、治安はこの3年で一番良くない状況です。ですから私たちが活動する時は、信頼できる人としが行わないようにしています。

これからの予定

3月中にはウクライナに戻って支援活動を再開します。これまでしてきた訪問活動や水を濾過する機材を、福祉施設や教会に提供することも考えています。自家発電機の配布は終了しましたが、リヴィウの倉庫には日本から届けられた「パンの缶詰」も少しありますので、それも必要に応じて適時配布します。ただ、これはもしロシアがもっと酷い攻撃(核兵器)をした時の緊急食料としても考えています。夏になれば教会のキッズキャンプの運営の手伝いもします。

次頁にウクライナ緊急支援募金の案内